

農業経営基盤強化促進法第 18 条第 1 項の規定に基づき、公表します。

那須塩原市長 渡辺 美知太郎

市町村名 (市町村コード)	那須塩原市 (09213)	
地域名 (地域内農業集落名)	黒磯地区 (共墾社1丁目、東栄1～2丁目、豊浦、共墾社、下厚崎、渡辺、安藤町、原町、東豊浦)	
協議の結果を取りまとめた年月日	2026年7月6日 (第5回)	

注 1 : 「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注 2 : 「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してく

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

- ・規模拡大の意向がある担い手がいることから、営農維持の支援や集積・集約を図る必要がある。
- ・米価が安く、農業経営に必要な経費が高騰しており、農業に魅力がない。

【地域の基礎的データ】

担い手：34人、農業者平均年齢：約59歳、主な作物：水稻

(2) 地域における農業の将来の在り方

- ・地域の担い手に農地を集約する。また、法人化や集落営農化を図り農地を集約していく。
- ・都市計画区域や住宅地内にある農地を保護する制度整備を行政に要望する。
- ・地域ブランドの確立を図るとともに、観光農園や直売所の設置を検討し農業収益を上げる。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	167.5 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	167.5 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積) 【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

--

注：区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

（１）農用地の集積、集約化の方針
農地中間管理機構を活用して、地域の担い手に農地を集約する。また、法人化や集落営農化を図り農地を集約していく。
（２）農地中間管理機構の活用方針
農地中間管理機構を活用して、農用地の集積、集約を進めていく。
（３）基盤整備事業への取組方針
・ 農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るためには、基盤整備や圃場整備は必要不可欠である。 ・ 整備に係る費用の補助を行政に要望する。
（４）多様な経営体の確保・育成の取組方針
市、JA等の関係機関と連携し、多様な経営体の確保・育成に努める。
（５）農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
地域内で農作業の効率化を図るため、活用できる農業支援サービス事業者等があれば、活用を検討する。

以下任意記載事項（地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください）

①鳥獣被害防止対策	②有機・減農薬・減肥料	③スマート農業	④輸出	⑤果樹等
⑥燃料・資源作物等	⑦保全・管理等	⑧農業用施設	⑨耕畜連携	⑩その他
【選択した上記の取組方針】				